

機関番号：32404

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008(平成20)年度～2010(平成22)年度

課題番号：20520421

研究課題名(和文) 北陸新方言の地理的社会的動態の研究

研究課題名(英文) Geographical and social studies of the Hokuriku New Dialects

研究代表者

井上 史雄 (Fumio Inoue)

明海大学・外国語学部・教授

研究者番号：40011332

研究成果の概要(和文)：

本研究では、日本海側に分布する諸方言の地理的年齢的動態に着目して、総合的な実態調査を行った。北陸に集中し、実地調査とコンピューター入力、図化に力を注いだ。最終年度末にはグロットグラム集が完成し、関係者に配布された。また明海大学のホームページで公開した。成果発表のために国際会議に参加し、Proceedingsで刊行された。また付随した山添調査の報告書を刊行した。

研究成果の概要(英文)：

In the present study, the overall investigation of actual conditions of dialect was executed paying attention to the geographic and age movements of various dialects distributed on the Sea of Japan side. It concentrated on Hokuriku, and energy was devoted to the field survey, the computer input, and drawing figures. The glottogram atlas was completed at the final end of fiscal year, and it was distributed to scholars who may be interested. Moreover, it was opened to the public on the homepage of Meikai University. A member participated in an international conference for the result announcement, and it was published in the Proceedings. Moreover, the report of the accompanied Yamazoe survey was published.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 平成 20 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 平成 21 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 平成 22 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：(1) 方言 (2) グロットグラム (3) 地理×年齢図 (4) 地理的年齢的動態 (5) 山添調査 (6) 日本海 (7) 北陸地方

1. 研究開始当初の背景

現在日本の方言は急速な消滅の趨勢にあるが、日本海側の諸方言は、まだ盛んに使われ、活力がある。若い世代ではいわゆる新方言も観察される。記録の最後のチャンスである。

線状の地域で年齢別にことばを調べて図化する「グロットグラム」(地理×年齢図)の手法は、日本方言学が独自に開発した、世界に誇るべき新技法である。現在進行中の言語変化を知るのに最適の手法であり、社会言語学・歴史言語学への貢献も大きい。これまで、日本列島を縦断して北海道から九州まで延長され、本土全体の方言伝播パターンを一望の元に収めることができた。しかし実地調査は東京や京阪神を含めた太平洋側に偏り、日本海側のことばの動きは明らかになっていなかった。H19年度までの科研費共同研究により、日本海側東部にあたる青森～新潟間および滋賀県については、実地調査が終わり、報告書を刊行できた。過去3年間に青森県から富山県までの実地調査をほぼ終えたが、地点数はまだ不足だった。

H20-22年度には北陸3県の実地調査とそのコンピューター入力に力を注いだ。かなりの企画ができていたので、あとは野外調査の実施のみであった。地元の大学の教員が先頭に立って調査を行うので、教育委員会その他の協力も得られやすく、順調に進んだ。今回は富山県以西、京都にかけての地域でデータを整えた上で、大きな図集としての報告書を刊行した。

本研究では、日本海側に分布する諸方言の地理的年齢的動態に着目して、総合的な実態調査を行うと同時に、過去の方言調査資料とも関係づけて、日本語方言の歴史的発展過程について理論的整備を図った。文献などから過去の歴史を知り、現代の言語年齢差が過去の言語変化の継続であることを実証した。さらに、多変量解析法による分析も行った。

これまでに得られた調査データすべてを、報告書および電子データ(CD、インターネット)の形で公開した。

2. 研究の目的

本研究では、日本海側に分布する諸方言の地理的年齢的動態に着目して、総合的な実態調査を行った。本研究では、先端的な二つの手法を用いて、現代の方言変化の動態をあきらかにした。第一は、線状の地域で年齢別にことばを調べて図化する「グロットグラム」(地理×年齢図)の手法である。今回は北陸地方のことばの動きを明らかにした。

第二は、数十年を隔てての住民全員の言語調査である。山形県鶴岡市近郊で1976年、1991年に成員全員の言語調査が行われ、2006年はその15年目にあたる。3回の調査を通じて、農村地域の言語変化の状況が分かった。この調査は、山形県鶴岡市で1950年から3回にわたって国立国語研究所により行われた共通語化調査と照合できた。二つの調査には共通項目が多いので、鶴岡周辺の言語変化が、日本海岸全体でどう位置づけられるかが、分かった。また全国のグロットグラム調査の結果と照合して、近代の言語変化と伝播の様相を、具体的に検討できた。

3. 研究の方法

グロットグラム(地理×年齢図)調査第1年度は、異なった機関に属していた研究者が、多様な研究手法を統一するために打合せを行った。これにより、各分担者のかつての成果を広い地域で考察できた。準備調査に基づき、使用予想語形には前もってコード番号をふった。グロットグラム調査は、地点あたりのインフォーマントの数が多だけに、人探しに手間がかかる。従って地元教育委員会・公民館などと連絡をとり、協力体制を整えた。第1年度に北陸の多数地点でグロットグラムのための実地調査を行った。地元の協力の得にくい地点は、翌年度にまわした。調査員としては、分担者および方言研究に経験のある協力者(小中高の教師)が参加した。データは調査終了後すぐにコード化し、分担者に配布した。分担を決めて、グロットグラムの図を作成し、また多変量解析にかけた。

山添地区全員調査は、第1年度冬に行った。農閑期を利用して、調査協力者を確保する。調査票などは15年前とほぼ同じものを使った。当時すでに電子化しておいたので、簡単な作業で終わった。15年経って農村の人の意識も変わり、個人情報保護法などによって、現地調査がやりにくい状況なので、むしろ地元の理解を得る交渉に労力をさく必要があり、夏・秋にかけて現地との交渉を行った。

第3年度の平成22年度には、滋賀県で、グロットグラムのための実地調査を実行した。これまでに行った北陸地方の調査地点と連続する。これで日本海岸全体をカバーするとともに、方言の広域での地理的年齢的動態を具体的に把握できた。

年度途中に打ち合わせ会を行い、研究分担者・連携研究者が参加した。集まったデータをもとに全体的考察を行い、図化の方針について討議した。

4. 研究成果

最終の年度末には連携研究者半沢により、グロットグラム集が完成し、関係者に配布された。また明海大学のホームページにアップロードし、より多くの研究者に公開する予定である。

また中間発表会では、北陸のグロットグラムの分布傾向の分析、多変量解析適用による全体的分析、日本国内全体の地理的分布の中の位置付けなどが発表された。その資料もホームページにアップロードする予定である。

成果の発表のために国際会議に出張して、口頭発表を行った、また Proceedings で刊行された。さらに、付随した山添調査の報告書を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16 件)

- ① 井上史雄 「「お」の使い分けにみる美化語の循環過程」日本語の研究、査読有、6-4, 2010.10, pp.63-78
- ② 井上史雄 Standardization and de-standardization processes in spoken Japanese Patrick Heinrich and Christian Galan (eds.) Language Life in Japan, 2010.8, pp.109-123 Routledge
- ③ 井上史雄 Real and Apparent Time Clues to the Speed of Dialect Diffusion Dialectologia, 査読無, 5, 2010.7, pp.45-64
- ④ 井上史雄 The Time-span of language standardization in a modernized society 明海大学応用言語学研究, 査読無, 12, 2010.3, pp.95-106
- ⑤ 井上史雄 「敬語の心」明海大学応用言語学研究, 査読無, 12, 2010.3, pp.59-70
- ⑥ 井上史雄 「東京新方言の重力モデル」明海大学外国語学部論集, 査読無, 22, 2010.3, pp.1-16
- ⑦ 井上史雄 「成人後採用による敬語変化」計量国語学、査読有、27-3, 2009.12, pp.81-103.

- ⑧ 井上史雄 Year of first attestation of Standard Japanese Forms and Gravity Center by Railway Distance Dialectologia et Geolinguistica (SIDG), 査読無, 17, 2009.11, pp.118-133
- ⑨ 井上史雄 「方言の多様性をさぐる」大津由紀雄編『はじめて学ぶ言語学』, 査読無, ミネルヴァ書房, 2009.10, pp.269-287
- ⑩ 井上史雄 「ことばの伝わる速さ---ガンポのグロットグラムと言語年齢学---」日本語の研究、査読有、5-3, 2009.7, pp.17-31
- ⑪ 井上史雄 「音韻共通語化の S 字カーブ---鶴岡・山添 6 回の調査から---」計量国語学、査読有、26 巻 8 号, 2009.3, pp.269-289
- ⑫ 井上史雄 「日本語敬語の変化とアジアの敬語」社会言語科学会発表論文集 23, , 査読無, 2009.3, pp.299-302
- ⑬ 井上史雄 「経済言語学からみた言語景観」『日本の言語景観』, 査読無, 2009.3, pp.53-78 庄司博史・P. バックハウス・F. クルマス編著 三元社
- ⑭ 井上史雄 「経済財としての言語」応用言語学研究、査読有、11, 2009.3, pp.95-102
- ⑮ 山下暁美 “Gender Difference in the Japanese Dialects-the Case of Shiga Prefecture” *Dialectologia 6 Revista Electronica*, 査読有、(単著), 2011・Jan, pp.74-94
- ⑯ 山下暁美 “Language variation and diffusion in Japan: research through the use of glottograms” *Proceedings of Methods XIII*、査読有、(A.Yamashita & Y.Hanzawa), 2010,

[学会発表] (計 0件)
省略

[図書] (計 6件)

- ① 井上史雄・加藤和夫・中井精一・半沢康・山下暁美『北陸方言の地理的・年齢的分布(北陸グロットグラム)』科学研究費研究成果報告書, 2011.3, (明海大学), 415ps.
- ② 井上史雄『鶴岡市山添地区の新方言と発音』宮田研究奨励金成果報告書, 2011.3, 明海大学 14ps.
- ③ 井上史雄『鶴岡市山添地区の音韻共通語化』宮田研究奨励金成果報告書, 2010.3, 明海大学 8ps.
- ④ 井上史雄『鶴岡市山添地区の音声共通語化』宮田研究奨励金成果報告書, 2009.3, 明海大学 10ps.
- ⑤ 井上史雄監修『方言と地図』(フレール館), 2009.2, 84ps
- ⑥ 山下暁美『滋賀県湖北・湖東グロットグラム 北陸新方言の地理的社会的動態の研究』(編著) 平成20年度-平成22年度 科学研究費補助金研究基盤研究(C)課題番号 20520421 (研究代表者井上史雄) 研究成果報告書, 2011.1, 25ps.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:

取得年月日:
国内外の別:

[産業財産権]
○出願状況 (計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等
http://kite.meikai.ac.jp/japanese/inoue/inoue_top.htm

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 史雄 (INOUE FUMIO)
明海大学・外国語学部・教授
研究者番号: 40011332

(2) 研究分担者

山下 暁美 (YAMASHITA AKEMI)
明海大学・外国語学部・教授
研究者番号: 10245029

(3) 連携研究者

加藤 和夫 (KATO KAZUO)
金沢大学・人間社会学域 国際学類・教授
研究者番号: 60137015

中井 精一 (NAKAI SEIICHI)

富山大学・人文学部・准教授
研究者番号: 90303198

半沢 康 (HANZAWA YASUSHI)

福島大学・人間発達文化学類・准教授
研究者番号: 10254822